

平成 24 年度 大垣市スポーツ推進審議会 会議録

▽日 時：平成 24 年 8 月 28 日（火）午後 3 時 30 分から午後 5 時まで

▽場 所：市役所北庁舎 北館 1 階 教育委員会室

▽議 題：・「大垣市スポーツ振興計画」の進捗状況について
・その他

▽出席者（敬称略）

（委員）

堤 俊彦、高橋 正紀、大石 毅、日下部 良邦、安田 卓美
牧野 安孝、田口 利正、高橋 美和子、小川 修司、早野 正美
【計：10 名】

（オブザーバー）

宇佐見 昭典【計 1 名】

（事務局）

坂 喜美和（教育委員会事務局長）
大山 正行（社会教育スポーツ課長）
加藤 洋 （社会教育スポーツ課スポーツ振興係長）
大溝 秀冊（社会教育スポーツ課スポーツ振興係主任）
中島 康路（社会教育スポーツ課スポーツ振興係主事）【計 5 名】

▽欠席者：無

▽傍聴者：無

《審議会開会》

会長へ議事進行をお願いするまでの間、事務局が議事進行

《挨拶》

事務局長挨拶（略）

※挨拶後、事務局長退席

《議題》

ここからの議事進行については、大垣市スポーツ推進審議会設置条例第 6 条第 3 項の規定により、会長が会務を総理することとなっているため、以降の議事進行は会長が執り行う。

（堤会長）

○出席委員の報告

○審議会公開の報告

○事務局に対し、「大垣市スポーツ振興計画」の進捗状況について、説明を依頼。

(事務局)

「大垣市スポーツ振興計画」の概要を再度説明。資料2の「大垣市スポーツ振興計画」の進捗状況（平成23年度の実施結果を踏まえて）について説明（略）

(堤会長)

事務局からの説明について、ご意見、ご質問があれば、お願いしたい。

(堤会長)

全体的にみると、平成22年度に比べて、平成23年度の目標指標数値は良くなっている。

「大垣市の教育に関する市民アンケート調査」の結果を数値に挙げているが、アンケートの回収率が47.4%というのは、低いのではないか。せめて50%は必要。

(事務局)

アンケート調査は、スポーツ以外の項目もある。また無作為抽出の為、スポーツに関心がない方、スポーツ施設を利用したことがない方も対象者になっている可能性がある。今後、体育連盟と協力して、スポーツ施設を利用している方にアンケート調査を依頼したいと考えている。

(田口委員)

「国体の岐阜県選手団における大垣市関係者の割合」という指標は、今後、重要視する必要はあるのか。また、「学校における独自の体力向上に関わる取り組み」という指標は、学校の特色を活かした取り組みなのか。それとも単に運動をしていることも取り組みにあたるのか。

(事務局)

「国体の岐阜県選手団における大垣市関係者の割合」については、他の市町村の数値も調べた上で、再度検討したい。

「学校における独自の体力向上に関わる取り組み」については、マラソンや縄跳び、ラジオ体操などの運動をしていただいております、学校の特色を活かしたものの、そうでないものも取り組みのひとつとしている。

(安田委員)

学校行事に合わせて取り組みをしている学校が多い。例えば、冬に行うマラソン大会に向けて、1～2ヵ月前から朝マラソンを行っている。日新小では、一輪車大会に向けて、全校で一輪車の練習を行っている。赤坂小では、PTAが中心となって相撲に力を入れている。

「体力調査結果が全国平均を上回る種目の割合」について、計測をする側（先

生)によっても数値は変化してくる。また、種目に対しての準備(練習)が足りないことも低下の原因と考えられる。校長会では、計測をする先生方への指導、種目の練習を呼び掛けている。

(日下部委員)

測定方法の改善、種目の練習について、必要性を感じる。

(事務局)

今後、計測をする先生方への指導を行い、種目の練習をしてからスポーツテストに臨むよう、校長会等をお願いをしたい。

(牧野委員)

「スポーツ少年団の入団促進(入団率)」について、スポーツ少年団以外にも民間のスポーツクラブに入会している子どもも多くおり、スポーツをしている子どもは増えている。

「学校開放施設の拡充」について、大垣商業高校、大垣工業高校は定時制があり、夜間開放は不可能と考えられる。目標値の85箇所を変更するべきである。

(事務局)

開放可能な学校を再度調査し、目標値を適正な数値に変更していく。

(牧野委員)

「地域スポーツクラブの設立支援」について、大垣市のスポーツクラブの現状はどうか。

(事務局)

現在、大垣市には総合型地域スポーツクラブが6団体(1団体休止中)ある。また、体育振興会が中心となり運営している校区のスポーツクラブもある。

(早野委員)

大垣市のような体育振興会という組織が存在し、地域のスポーツ振興を担っている市町村は珍しい。体育振興会の活動をもっと評価してもよいのではないか。他の市町村には、体育振興会のような組織が存在するのか。

(事務局)

他の市町村に連絡を取り、確認をする。また、どのような活動をしているかの確認も行う。

(堤会長)

「大垣市スポーツ振興計画」にもあるように体育振興会を核とする本市独自の大垣型地域スポーツクラブを確立していくべきである。

(高橋委員)

フィットネスジム等をみても、健康増進を目的に運動をする人が増えている。その反面、指導者が不足しており、育成が必要である。また、学校体育、部活動の充実も図る必要がある。

(事務局)

中学校部活動派遣指導者は平成 23 年度に 75 人派遣している。今後、予算等を考慮して、派遣指導者数を増やせるようにしたい。

(堤会長)

スポーツ推進委員の活動はどうか。

(大石委員)

毎月第 2 日曜日をヘルシーウォークの日と定め、スポーツ推進委員が中心となり、ウォーキングを行っている。ウォーキングは誰でもでき、場所を選ばない運動であり、地域にも根付いている。

(高橋委員)

健康志向が高まる反面、コミュニケーション不足が問題となっている。

(安田委員)

最近の子どもたちをみると、すぐにケンカをする。家で集まっても個人でバラバラのことをやっている。会話をすることが苦手で、メールで済ませてしまうこともある。親にも同じことがいえる。

(高橋委員)

スポーツを通して、コミュニケーション能力を培い、社会のルール等も学んでほしい。

(小川委員)

指標ごとに定めている目標値に対する進捗状況をしっかりと把握することが重要である。それを踏まえて、修正計画を考えていく必要がある。

(事務局)

目標年度である平成 26 年度までに達成できることを見越した現実的な目標値（修正計画）を次回の審議会までに作成する。

(牧野委員)

学校体育をもっと重要視するべきである。大垣市は体育の教員が少ないのではないか。もっと増やせないのか。

(事務局)

県の採用なので難しいところがある。

(高橋副会長)

小、中学校の体育授業をもっと充実させて、体育を好きになってほしい。また、部活動は、日本独自のすばらしい活動である。部活動指導者の質の向上、指導者数の増加を今後の課題と考える。

(事務局)

今年度から「夢の教室」事業で、トップアスリートを夢先生としてお呼びし、各小学校で授業を行ってもらっている。スポーツを通しての青少年健全育成に努めている。部活動指導者についても今後、講習会等の開催を検討したい。

(堤会長)

予定の時間となりました。次回、平成 25 年度の審議会についてですが、今年度同様 8 月ごろの開催を予定したい。詳細については、事務局から案内をお願いしたい。

《審議会閉会》